

# 02 学習のルールをつくり、守る機運を高めるには？

担任経験3年目・女性

「授業改善」と言われ、子ども主役の活動を取り入れたいのですが、そのためには、学習規律が大切だと思います。押し付けでなく、子どもが納得するものをどうつくればよいでしょうか。

**A** 「ルールは自分たちのもの」という意識と合意形成の過程を大切にしよう！

それまでの経験をもとに、互いの思いや考えを認め、高め合う学びのルールを想起させる。また、一つ一つのルールの必要性を確認し、みんなで決める過程を大切に、その意義を共通理解させる。

## 戦略の構造 /

### 学習のルールを子ども自身が作り出す手順

- 子どもたちは、これまでの経験から、楽しくかつ互いに高めあう授業に必要な「学習のルール」を考える実践的な力を持っている。

#### 子どもたち

今の学習集団の実態を踏まえて、自分たちに必要なルールは何かを考える活動。



これは学級一人ひとりのためのルールであり、みんなのためという意識を醸成。



#### 教員

他人事ではない、自分たちが学習するためのルールだという当事者意識を高める。



授業を通して、互いに高めあう集団をつくるという意識を形成する。  
\*必要に応じて助言する。



### みんなで決めた学習ルールを大切に、楽しく学力をつける授業

#### 仕掛けのポイント

子どもが「もっているもの」を引き出す

ルール(きまり)は管理に欠かせないと考えがちだが、与えられた規則は必ず破られるというのが世の常である。子どもが主役の学級経営では、規則による管理ではなく、子どもたちが「自分たちがよりよい関係で過ごす学級に必要なものは何か」という視点から考える機会を設け、検討・吟味する力を身に付けさせたい。この実現には、教員の「子どもに必要な答えは、子どもの中にある」という指導観が必要である。教員の役割は、それを引き出すことにあることを自覚したい。

ルールは集団の成長とともに進化する

入学当初の1年生にとって、着席の仕方やノートの使い方、発言の仕方などは、担任に指導される内容である。しかし、これらは身に付けば約束事としての学習ルールとなり、意見の比較や考えを高め合う際のルールなど、さらに高度な内容が積み上げられていく。つまり、経験をもとに発達段階や集団の特性に応じて学習ルールも進化していくのであり、ある程度の経験を積んだところからは、子どもたちによる創造的なルール作りの活動を大切にしたい。

### これまでの経験をもとに、学級の学習ルールを決める活動を工夫しよう！

- 「学習中にこれだけは守ろう」をテーマに、これまでの経験を振り返りながら、個々に学習ルールを書き出す。

- おしゃべりをしない。
- ノートをとる。
- 班での話し合いのときは、意見を言う。

- 発言の際は手を挙げる。
- 忘れ物をしたときは、授業前に先生に言う。
- 姿勢をよくする。

- 個々に書き出したことを班で検討し合い、「〇年生としてみんなで大切にしたいこと」という視点で、3つ程度に絞り込む。

まず、自分としての意見を持つことが大事だね。

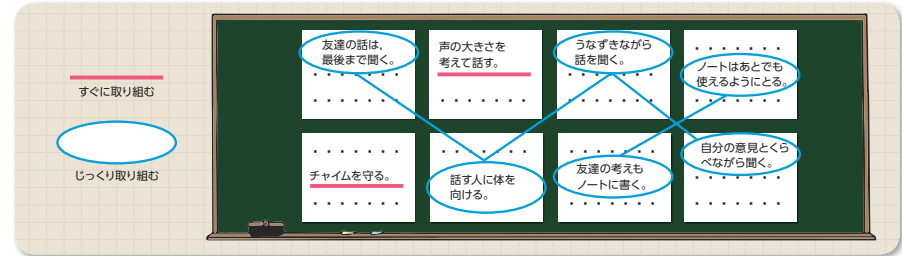
最近、返事や発言の仕方が少しいかげんになってきた気がする。

- 班ごとに検討・吟味した「大切にしたいこと」を黒板に掲示して、短期的に取り組むルールと、中長期的に取り組むルールを意識して、それぞれさらに5点ほどに絞り込む。

発言している人の方に体を向けてうなずきながら聞くことを大切にしたい。



言葉も大切にしないといよい結論を出せないよね。



### 学習の仕方の基本スタイルを合意形成しよう！

- 1 単位時間の学習の流れは、どの教科も問題解決の学習過程を意識したものにする。  
・その時間のめあて  
・考える手順  
・その結果をもとにした話し合い  
・まとめ  
という流れで学習を進めていくことの意味を子どもと合意しておく。
- 2 基本的な学習の流れが分かっていると、展開の見通しが立つので、子ども主体の活動となる。「もっとこうすればよい」というアイデアも生まれる。それらを取り入れながら、学級に合った学習ルールを整えていく。
- 3 下の例のように、板書も学習の流れが一目瞭然となっている授業は、学習の進め方が明確になっている。ノートに向かって自分の考えを書く場面、自分の考えを友達と交流する場面などが、板書を見れば分かる。

